

教育・誘引防止・飲酒運転等ワーキンググループ 整理票

※本表は、これまでの関係者会議及びWGでの議論や委員の御意見を整理したものであり、必ずしも客観的データを伴わない記述も含まれている。

| 項目 | 施策・取組(●:施策、○:取組) | 現状 | 課題・問題点 | 求められる施策等 |
|---|---|--|---|---|
| 教育・誘引防止・飲酒運転等WG | | | | |
| 3 アルコール健康障害に関連して飲酒運転等をした者に対する指導等 | | | | |
| (1) 飲酒運転をした者に対する指導等 | | | | |
| 飲酒運転 | <ul style="list-style-type: none"> ●刑務所における交通安全指導におけるアルコール依存回復プログラム ●保護観察対象者(仮釈放者、保護観察付執行猶予者)に対する飲酒運転防止プログラム ●飲酒運転違反者に対する停止処分者講習(飲酒学級)、飲酒取消処分者講習 ●事業用自動車における飲酒運転に対する行政処分の厳格化 ○複数回飲酒運転違反者に対する依存症受診指導等(福岡県) ○飲酒運転違反者に対する依存症受診指導等(三重県) ○複数回飲酒運転違反者に対するスクリーニング及び受診勧奨(大阪府警) ○刑務所における教育プログラムへの参画(断酒会・AA) ○保護観察対象者への教育・相談支援(断酒会・AA) | <ul style="list-style-type: none"> ◆飲酒運転による交通事故件数は、年々減少しているが、近年減少幅が鈍化。月別では年末、曜日別では週末に増加。 ◆飲酒運転による交通事故の当事者の年齢は40歳台がピークだが、死亡事故件数では20歳台、死亡事故割合は20歳未満及び80歳台が高い。 ◆飲酒運転の再犯者の多くにはアルコール依存症の疑いのある者や、多量飲酒者が多くいる。 ◆依存症者の場合はなかなか啓発が効果を持たない。 ◆問題飲酒のスクリーニングテストの点数が悪い人の方が、飲酒運転の経験率が高い。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆若い世代の飲酒運転事故では、死亡事故率が高く、死亡事故時の飲酒量も多量の傾向。 ◆飲酒運転からの依存症等への介入は大事である。 ◆多職種・多機関の人たちが連携するような、戦略的な考え方での対策が必要。 ◆飲酒運転等をした者等が、治療や相談を受けにいくきっかけとする方策が必要 ◆飲酒運転で検挙された時点で、治療等につながることができれば、依存症の進行を防止することに繋がる。 ◆飲酒運転等の受刑者等の教育に当たっては、刑期終了後や保護観察期間中に、自助団体へつなぐことを考えるべき。 ◆インターロックの活用について、今後検討してもよいのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆飲酒運転者にアルコール依存症が疑われる場合は、地域の実情に応じ、条例等に基づき、関係機関が飲酒運転者に関する情報を共有した上で連携し、アルコール依存症に関する相談や自助グループ等の支援活動、専門治療につなげる取組を進める。 ◆刑務所での教育を契機として、相談や自助グループ等の支援活動、専門治療につなげる取組を進める。 ◆受刑者や保護観察対象者へのアルコール依存回復プログラム等の再犯抑止効果について検証を進める。 ◆飲酒取消処分者講習等において、地域の相談・治療機関リストの提供や、回復者の活用も考慮する。 ◆飲酒運転による交通事故について、年齢層別を含めた事故実態の分析等を引き続き推進する。 |

(2)暴力・虐待・自殺未遂等をした者に対する指導等

| | | | | |
|--------------------------|--|--|---|---|
| <p>①</p> <p>暴力・虐待</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●関係法令を適用し、加害者の検挙、指導、警告等を実施(DV・虐待) ●児童相談所で、通告・相談を受付 ●刑務所における一般改善指導におけるアルコール依存回復プログラムを試行中 ●保護観察対象者(仮釈放者、保護観察付執行猶予者)に対する暴力防止プログラム ○保健所をハブとした地域ネットワークの構築(愛知県衣浦東部保健所) ○刑務所における教育プログラムへの参画(断酒会・AA) ○保護観察対象者への教育・相談支援(断酒会・AA) | <ul style="list-style-type: none"> ◆酩酊時はもちろん離脱時にも家族への暴力・暴言が家族へのトラウマにつながる。 ◆保健所でのアルコール相談の半数は、「暴言・暴力・暴れる」という内容であった。(愛知県衣浦東部保健所) ◆飲酒によって衝動性が高まるので、自殺だけでなく、他の犯罪や暴力行為にも関係する。 ◆鉄道の方でもお客様が酔って暴れる等の状態で困っているのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆虐待、家庭内の暴力の背景にアルコールの問題があるという認識がある。一方で明確なデータがない。 ◆暴力・虐待をした者等が、治療や相談を受けにくきっかけとする方策が必要 ◆飲酒運転等の受刑者等の教育に当たっては、刑期終了後や保護観察期間中に、自助団体へつなぐことを考えるべき。 ◆最初の介入時点では、対象者が酩酊状態のことが多く、翌日には覚えていない。 ◆平成25年度における鉄道係員に対する暴力行為のうち約6割が飲酒を伴っている。 | <p>【調整中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆暴力事案、虐待事案の当事者に、アルコール依存症が疑われる場合は関係機関を通じて、アルコール依存症に関する相談や自助グループ等の支援活動、専門治療につなげる取組を進める。 ◆飲酒した少年の補導をはじめ、酒類販売・提供業者等に対する取締り等の非行防止対策を推進する。 |
| <p>②</p> <p>酩酊による事故等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○保健所をハブとした地域ネットワークの構築(愛知県衣浦東部保健所) | <ul style="list-style-type: none"> ◆鉄道の方でもお客様が酔ってホームから転落等の状態で困っているのではないか。 ◆路上寝込みによる事故がかなりあるのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ホームにおける人身傷害事故は、年々増えており、そのうち醉客による事故が約6割を占めている。 | <p>【調整中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆酩酊時の保護や事故等をきっかけとして、アルコール依存症が疑われる場合は関係機関を通じて、アルコール依存症に関する相談や自助グループ等の支援活動、専門治療につなげる取組を進める。 |

| | | | | |
|--------|---|--|--|---|
| ③ 自殺未遂 | <p>○保健所をハブとした地域ネットワークの構築(愛知県衣浦東部保健所)</p> <p>○精神保健ネットワーク事業、自殺未遂者支援(荒川区) ※健診・医療WG</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆アルコールとうつが繋がって、自殺に結びつく経路が作られている。 ◆酔っていないとリミットがかかるのが、酒を飲むことでリミットが外れる、ということが多かったと思う。 ◆自殺対策のハイリスク要因の一つとして、アルコールや依存症の問題を盛り込んでいる自治体は出てきている。 ◆多量飲酒者については、自殺死亡率がそうでない者に比べ高く、アルコール依存症者については、そうでない者に比べ自殺死亡率が6倍といわれている。 ◆自助グループの存在は自殺予防にも効果を上げている。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆中高年の自殺の急増期について、アルコールの問題に対する関心を高めなくてはいけない。 ◆自殺対策とアルコール対策が連携していくことが期待されている。 ◆自殺に向かう原因は様々な問題と複数の要因が関係している。 ◆依存症であるかどうかにかかわらず、自殺のリスクのある者にとって、飲酒は危険である。 ◆自殺死亡者のうち、アルコール関連問題を呈した人は、複数の問題を抱えている一方で、アルコールについての相談等を受けておらず、支援にアクセスできていない。 ◆アルコール関連問題を抱えている者への早期介入が自殺予防につながる。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆自殺未遂で搬送された際に、アルコール依存症が疑われる場合は、関係機関を通じてアルコール依存症に関する相談や自助グループ等の支援活動、専門治療につなげる取組を進める。 ◆自殺対策の中でアルコールの視点を持つていくことが必要。 |
|--------|---|--|--|---|